

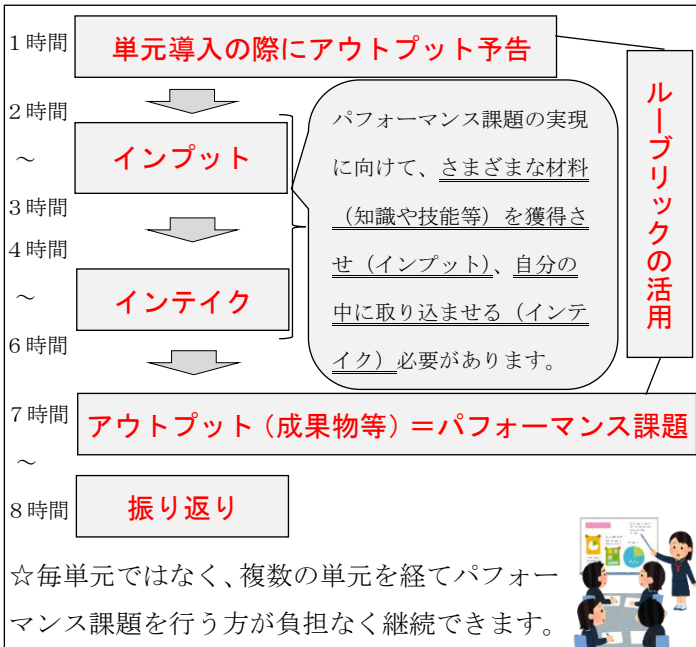
7月29日(金)に英語科と「新たな学び」推進委員の先生方と「学習評価に係る勉強会」を実施しました。学習評価の目的は、「『子供たちにどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするため」とされています。教科内で意見共有しながら作成した評価法の活用を通して、自身の指導改善に生かしたり、生徒の学びの改善に生かしたりする、「目標 - 指導 - 評価」が一体となった授業改善が求められています。教師同士、生徒同士、教師と生徒が共に学びあいながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善において、学習評価は重要な役割を担っています。

1 パフォーマンス課題とは

評価のための評価にならないよう、第19号で紹介したパフォーマンス課題(学習課題)を学期に1~2回程度意図的・計画的に入れると効果的です。その活動が生徒の資質・能力を育成する一助となるだけでなく、「思考・判断・表現」等を見取ること(ルーブリックの活用)も可能にします。その際、単元や題材の内容等と関連させたパフォーマンス課題が生徒の現実世界(実生活)と結びついたリアルな課題である必要があります。英語科(昨年度)のパフォーマンス課題例:

- What can you do to protect the health of the sea?
(1年生1学期)
 - Let's introduce Japanese culture to Missie sensei!
(1年生2学期)
 - What can we do to make the world a better place?
(1年生3学期)
- ※生徒への提示は、英語と日本語の場合があります。

2 単元構成の流れ(パフォーマンス活動例)



3 実態調査アンケート

期間: 令和4年7月12日(水) ~ 14日(木)
調査方法: 質問紙法(4件法)

	質問項目	平均
1	日頃から、ALの視点をもって授業改善に取り組んでいる。	2.9
2	教科内で、評価方法や評価規準(基準)の共通認識が図られている。	3.1
3	教科内で、評価方法や評価規準(基準)を共有している。	3.1
4	単元や題材のまとまりごとにパフォーマンス活動(課題)を実施している。	2.9
5	ルーブリック等(学習到達度を示す評価基準等)を活用した評価法を取り入れている。	3.0
6	ルーブリック等の活用を通して授業改善に取り組んでいる。	2.7
7	ルーブリック等を活用したり、パフォーマンス課題を取り入れたりすることで、生徒が主体的に学ぶようになると思う。	3.1
8	ルーブリック等(学習到達度を示す評価基準等)を活用して、生徒のパフォーマンス活動(課題)等を意図的に評価している。	2.8
9	ルーブリック等(学習到達度を示す評価基準等)を、パフォーマンス活動(課題)以外にも活用している。活用している場合は、その具体例を記入してください。	1.9
10	教科等横断的な視点をもって授業に取り組んでいる(取り組もうとしている)。	2.5

大変お忙しい中アンケートへの御協力、本当にありがとうございました。教科や科目の特性によりありますが、パフォーマンス活動と評価活動を一体にした取組は授業改善の一助になると考えられます。今後も先生方の御意見を参考に、校内研修や各種資料等に還元いたします。

質問9に関しては、ノートや副教材点検用のルーブリック(評価基準)を作成し事前に生徒に示しておいたり、学習の苦手な生徒等には以下のチェックリストを準備したりして、生徒自身に理解度をチェックさせる等の活用法もあります。

チェックリスト(できている所・できていない所を可視化)

理解度チェック	教科書
<input checked="" type="checkbox"/> 動詞と一般動詞の違いが説明できる	p.6
<input type="checkbox"/> 助動詞を4つ以上覚えている	p.8
<input checked="" type="checkbox"/> 進行形の意味や形を理解している	p.12
<input checked="" type="checkbox"/> 受け身の意味や形を理解している	p.18 (参考書 p.14 も参考に)
<input type="checkbox"/> 不定詞の形を説明できる	p.21
<input type="checkbox"/> 不定詞の3つの用法を、例文を使って説明できる	pp.22-24